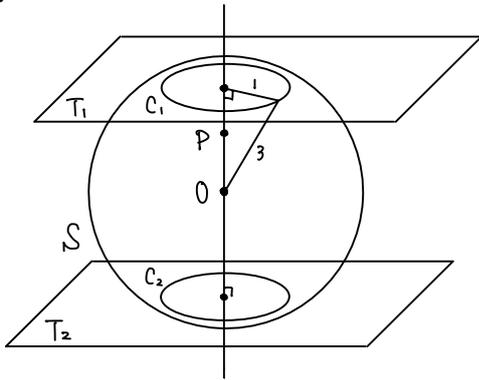


(1)

(1)



直線OP上の点Qとすると、実数kを用いて

$$\begin{aligned} \vec{OQ} &= k\vec{OP} \\ &= (k, 0, \sqrt{3}k) \end{aligned}$$

$$|\vec{OQ}| = 2\sqrt{2} \text{ より}$$

$$k^2 + (\sqrt{3}k)^2 = 8$$

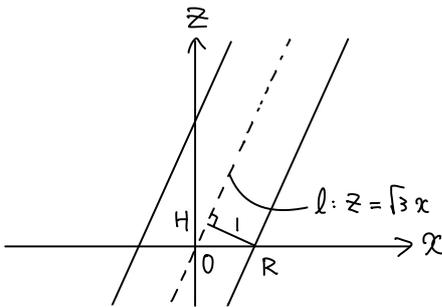
$$k^2 = 2$$

$$k = \pm\sqrt{2}$$

よって、C1, C2の中心の座標は、それぞれ

$$(\sqrt{2}, 0, \sqrt{6}), (-\sqrt{2}, 0, -\sqrt{6}) \dots (\text{答})$$

(2)



x-y平面上の点R(x, y, 0)とし、xz

平面における直線l: z = √3x上の点を

実数tを用いてH(t, 0, √3t)とする

Rが求める曲線上にある条件は

$$\begin{cases} |\vec{RH}| = 1, \\ \vec{RH} \perp l \end{cases}$$

$$\begin{cases} (t-x)^2 + (-y)^2 + (\sqrt{3}t)^2 = 1, \\ t-x + \sqrt{3}t = 0 \end{cases}$$

よって

$$\begin{cases} (t-x)^2 + y^2 + 3t^2 = 1, \\ t = \frac{x}{\sqrt{3}} \end{cases}$$

を満たすtが存在することである

よって

$$\begin{aligned} \left(\frac{x}{\sqrt{3}} - x\right)^2 + y^2 + 3 \cdot \left(\frac{x}{\sqrt{3}}\right)^2 &= 1 \\ \frac{x^2}{3} + y^2 &= 1 \end{aligned}$$

このとき

$$-\frac{2}{\sqrt{3}} \leq x \leq \frac{2}{\sqrt{3}}$$

であるから

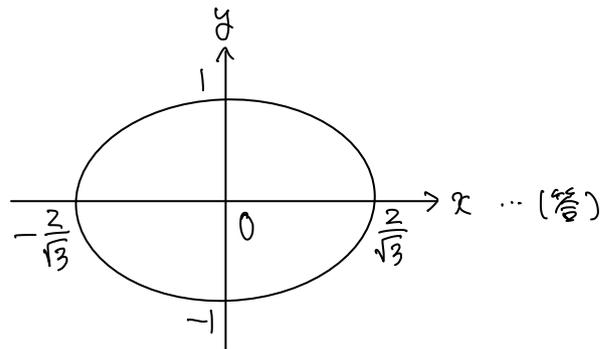
$$-\frac{1}{2\sqrt{3}} \leq t \leq \frac{1}{2\sqrt{3}}$$

となり、 $-\sqrt{2} \leq t \leq \sqrt{2}$ を満たす。

したがって、求める切り口の曲線の方程式は

$$\frac{x^2}{3} + y^2 = 1, z = 0 \dots (\text{答})$$

であり、次図のようになる



(2)

(1) $z = t + ti$ ($t \neq 0$) を

$$w = \frac{z^2 + 1}{z} \quad (t \text{ 代入 すると、})$$

$$w = \left(t + \frac{1}{2t} \right) + \left(t - \frac{1}{2t} \right) i$$

$$\begin{cases} x = t + \frac{1}{2t} \\ y = t - \frac{1}{2t} \end{cases} \quad \text{とおく。}$$

$x + y = 2t$, $x - y = \frac{1}{t}$ より
 t を消去 すると、 $x^2 - y^2 = 2$ (双曲線)

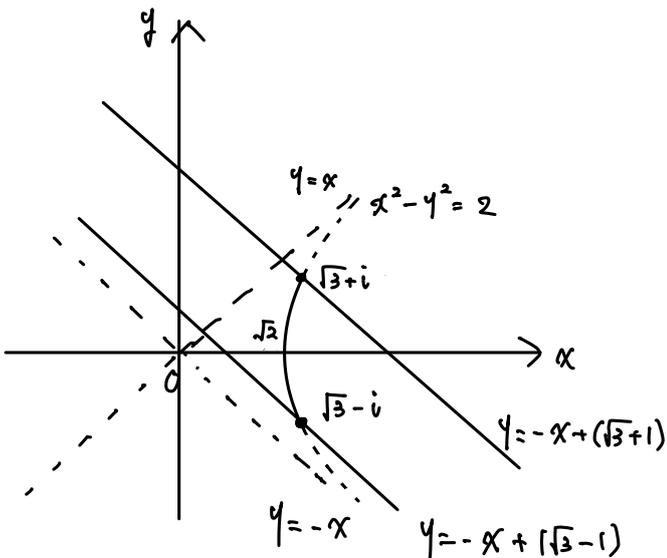
ここで、 $\frac{-1+\sqrt{3}}{2} \leq t \leq \frac{1+\sqrt{3}}{2}$ より、

$$2 \cdot \frac{-1+\sqrt{3}}{2} \leq x + y \leq 2 \cdot \frac{1+\sqrt{3}}{2}$$

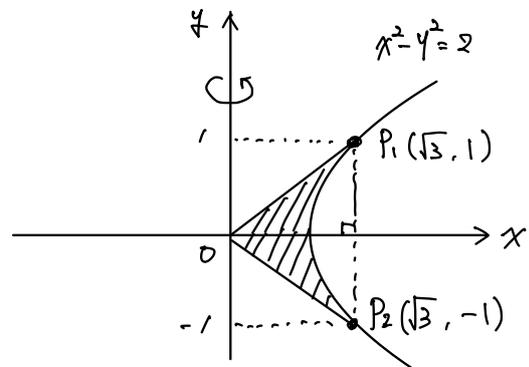
と なる。

$$-x + (-1 + \sqrt{3}) \leq y \leq -x + (1 + \sqrt{3})$$

以上の二つより、



(2) xy 平面で考えると、



求める体積を V とすると、対称性より

$$\frac{V}{2} = \pi \int_0^1 x^2 dy - \pi \cdot \sqrt{3} \cdot 1 \cdot \frac{1}{3}$$

$$= \pi \int_0^1 (y^2 + 2) dy - \pi$$

$$= \pi \left[\frac{1}{3} y^3 + 2y \right]_0^1 - \pi$$

$$= \frac{4}{3} \pi$$

$$\text{よって、} V = \frac{8}{3} \pi \quad \dots (\text{答})$$

(3)

(1)

p_1 は、3回硬貨を投げたとき、左から1, 2, 3番目の玉がすべて黒である確率である。

よって、

$$p_1 = (\text{3回とも裏が出る確率}) = (1-r)^3 \quad \dots(\text{答})$$

p_2 は、4回硬貨を投げたとき、左から2, 3, 4番目の玉がすべて黒である確率である。

1回目に表が出ると、左から2番目の玉は白となる。

よって、

$$p_2 = (\text{4回とも裏が出る確率}) = (1-r)^4 \quad \dots(\text{答})$$

(2)

左から1番目の玉が黒であるから、1回目は裏が出る。

その後、 $n+1$ 回硬貨を投げ、1番目を除いて、

左から $n-1, n, n+1$ 番目の玉がすべて黒となる。

よって、求める確率は、 $(1-r)p_{n-1} \quad (n \geq 2) \dots(\text{答})$

(3)

$n+2$ 回硬貨を投げたとき、左から $n, n+1, n+2$ 番目の玉がすべて黒となるのは、次のいずれかの場合で、互いに排反である。

ア) 1回目が表で、その後 n 回硬貨を投げ、

1, 2番目を除き、左から $n-2, n-1, n$ 番目の玉がすべて黒となる。

イ) 1回目が裏で、その後 $n+1$ 回硬貨を投

げて、1番目を除き、左から $n-1, n, n+1$ 番目の玉がすべて黒となる。

よって、 $n \geq 3$ のとき、

$$p_n = r p_{n-2} + (1-r) p_{n-1} \quad \text{より、}$$

$$p_n = (1-r) p_{n-1} + r p_{n-2} \quad \dots \text{①} \quad \dots(\text{答})$$

(4)

①は次の2通りに変形できる。

$$\begin{cases} p_n - p_{n-1} = -r(p_{n-1} - p_{n-2}) & \dots \text{②} \\ p_n + r p_{n-1} = p_{n-1} + r p_{n-2} & \dots \text{③} \end{cases}$$

②より、

$$\begin{aligned} p_{n+1} - p_n &= (p_2 - p_1)(-r)^{n-1} \\ &= (1-r)^3 (-r)^n \quad (n \geq 1) \quad \dots \text{④} \end{aligned}$$

③より、

$$\begin{aligned} p_{n+1} + r p_n &= p_2 + r p_1 \\ &= (1-r)^3 \quad (n \geq 1) \quad \dots \text{⑤} \end{aligned}$$

⑤-④より、

$$(1+r) p_n = (1-r)^3 \{1 - (-r)^n\}$$

よって、

$$p_n = \frac{(1-r)^3 \{1 - (-r)^n\}}{1+r} \quad \dots(\text{答})$$

(4)

(1)

$$\begin{aligned} \sqrt{2+\sqrt{3}} &= \sqrt{(\sqrt{2+\sqrt{3}})^2} \\ &= \sqrt{5+2\sqrt{6}} \end{aligned} \quad (\text{証明終})$$

次に、背理法を用いる。

$\sqrt{2+\sqrt{3}}$ が無理数でないとする、すなわち、有理数であるとすると、

$$\sqrt{2+\sqrt{3}} = r \quad (r: \text{有理数})$$

とすると、

$$r^2 = 5+2\sqrt{6}$$

$$\sqrt{6} = \frac{r^2-5}{2} \quad \dots \textcircled{1}$$

①の左辺は無理数であるが、右辺は有理数なので矛盾する。

よって、 $\sqrt{2+\sqrt{3}}$ は無理数である。 (証明終)

(2)

$$\alpha = \sqrt{2+\sqrt{3}} \text{ とおく。 } \alpha^2 = 5+2\sqrt{6} \text{ より}$$

$$\alpha^2 - 5 = 2\sqrt{6}$$

$$\text{ゆえに、} (\alpha^2 - 5)^2 = (2\sqrt{6})^2 \text{ より}$$

$$\alpha^4 - 10\alpha^2 + 1 = 0 \quad \text{をみたす}$$

よって、 α を解にもち、係数がすべて有理数の4次方程式の1つは、

$$x^4 - 10x^2 + 1 = 0 \quad \dots \textcircled{2} \quad \dots (\text{答})$$

$$\text{また、} \textcircled{2} \text{より } (x^2 - 5)^2 = 24$$

$$x^2 - 5 = \pm 2\sqrt{6}$$

$$x^2 = 5 \pm 2\sqrt{6}$$

$$= (\sqrt{3+\sqrt{2}})^2, (\sqrt{3-\sqrt{2}})^2$$

よって、②の解は、

$$x = \pm(\sqrt{3+\sqrt{2}}), \pm(\sqrt{3-\sqrt{2}})$$

$$= \sqrt{3+\sqrt{2}}, -\sqrt{3-\sqrt{2}}, \sqrt{3-\sqrt{2}}, -\sqrt{3+\sqrt{2}} \quad \dots (\text{答})$$

(3)

背理法を用いる。

α を解にもち、係数がすべて有理数の2次方程式が存在するとする。その方程式は、 ℓ, C も有理数として、

$$x^2 + \ell x + C = 0 \quad \dots \textcircled{3}$$

と仮定する。

α は、③をみたすから、

$$\alpha^2 + \ell\alpha + C = 0 \quad \dots \textcircled{4}$$

すなわち、

$$\alpha^4 = (-\ell\alpha - C)^2$$

(2)より、 $\alpha^4 = 10\alpha^2 - 1$ をみたすから、

$$10\alpha^2 - 1 = \ell^2\alpha^2 + 2\ell C\alpha + C^2$$

④より、 $\alpha^2 = -\ell\alpha - C$ を代入して、

$$(\ell^2 - 10)(-\ell\alpha - C) + 2\ell C\alpha + C^2 + 1 = 0$$

$$\ell(\ell^2 - 2C - 10)\alpha = -\ell^2 C + C^2 + 10C + 1 \quad \dots \textcircled{5}$$

ア) $\ell(\ell^2 - 2C - 10) \neq 0$ のとき

$$\textcircled{5} \text{は、} \alpha = \frac{-\ell^2 C + C^2 + 10C + 1}{\ell(\ell^2 - 2C - 10)} \quad \dots \textcircled{5}'$$

となる。

⑤'の左辺は、(1)より無理数であるが、右辺は有理数なので矛盾する。

イ) $\ell(\ell^2 - 2C - 10) = 0$ のとき

・ $\ell = 0$ のとき

$$\textcircled{5} \text{は、} 0 = C^2 + 10C + 1$$

$$\text{すなわち } C = -5 \pm 2\sqrt{6} \quad \text{となり}$$

C が有理数であることに矛盾する。

・ $\ell \neq 0$ のとき

$$\ell^2 - 2C - 10 = 0 \text{ を用いて、} \textcircled{5} \text{は、}$$

$$0 = -C(2C + 10) + C^2 + 10C + 1$$

$$C^2 = 1$$

$$C = \pm 1$$

$$\text{すなわち、} \ell^2 = 2C + 10$$

$$= 12, 8 \quad \text{より}$$

$$\ell = \pm 2\sqrt{3}, \pm 2\sqrt{2}$$

ℓ が有理数であることに矛盾する。

以上より、 α を解にもち、係数がすべて有理数の2次方程式は存在しない。 (証明終)

(5)

(1) $f(x) = \int_x^{x+1} \log(4t^2+1) dt$ (意味して,

$$f'(x) = \log\{4(x+1)^2+1\} - \log(4x^2+1)$$

$$= \log \frac{4x^2+8x+5}{4x^2+1}$$

よって,

$$f'(x) > 0 \Leftrightarrow \frac{4x^2+8x+5}{4x^2+1} > 1 \Leftrightarrow x > -\frac{1}{2}$$

同様に,

$$f'(x) < 0 \Leftrightarrow x < -\frac{1}{2},$$

$$f'(x) = 0 \Leftrightarrow x = -\frac{1}{2}$$

ゆえに, $f(x)$ は,

$$x = -\frac{1}{2} \text{ で極小値をとる. } \dots (\text{答})$$

このときの極小値は,

$$f(-\frac{1}{2}) = \int_{-\frac{1}{2}}^{\frac{1}{2}} \log(4t^2+1) dt$$

$$= [t \log(4t^2+1)]_{-\frac{1}{2}}^{\frac{1}{2}} - \int_{-\frac{1}{2}}^{\frac{1}{2}} \frac{8t^2}{4t^2+1} dt$$

$$= \log 2 - \int_{-\frac{\pi}{4}}^{\frac{\pi}{4}} \frac{8 \cdot \frac{1}{4} \tan^2 \theta}{\tan^2 \theta + 1} \cdot \frac{d\theta}{2 \cos^2 \theta}$$

($t = \frac{1}{2} \tan \theta$ ($-\frac{\pi}{2} < \theta < \frac{\pi}{2}$) とおいた.)

$$= \log 2 - \int_{-\frac{\pi}{4}}^{\frac{\pi}{4}} \left(\frac{1}{\cos^2 \theta} - 1 \right) d\theta$$

$$= \log 2 - [\tan \theta - \theta]_{-\frac{\pi}{4}}^{\frac{\pi}{4}}$$

$$= \log 2 - 2 + \frac{\pi}{2} \dots (\text{答})$$

(2) 平均値の定理より,

$$\frac{f(x) - f(x-1)}{x - (x-1)} = f'(c) \quad (x-1 < c < x)$$

よって c が存在する.

$x-1 < c < x$ より, $x \rightarrow \infty$ のとき,
 $c \rightarrow \infty$ である.

このとき,

$$x \{ f(x) - f(x-1) \} = x f'(c)$$

$$= x \log \left(1 + \frac{8c+4}{4c^2+1} \right)$$

$$= \frac{\log \left(1 + \frac{8c+4}{4c^2+1} \right)}{\frac{8c+4}{4c^2+1}} \cdot \frac{8c+4}{4c^2+1} \cdot x$$

$$= \frac{\log \left(1 + \frac{8 + \frac{4}{c}}{4c + \frac{1}{c}} \right)}{\frac{8 + \frac{4}{c}}{4c + \frac{1}{c}}} \cdot \frac{8 \left(\frac{c}{x} \right) + \frac{4}{x}}{4 \left(\frac{c}{x} \right)^2 + \frac{1}{x^2}}$$

よって, $1 - \frac{1}{x} < \frac{c}{x} < 1$ より,

$$\lim_{x \rightarrow \infty} \frac{c}{x} = 1 \text{ であるから,}$$

$$\lim_{x \rightarrow \infty} x \{ f(x) - f(x-1) \} = 1 \cdot \frac{8}{4}$$

$$= 2 \dots (\text{答})$$